

特別支援教育研修会への御参加、ありがとうございました。

府内の保育所、幼稚園、小・中・高校、支援学校等から約300名の参加がありました。多くの感想も寄せていただきました

テーマ 「作業療法の視点から見る『読み・書きの苦手さ』（発達障害）への支援」

講演 作業療法士 松島 佳苗 氏



発達障害等の子どもが抱える困難の背景には様々な原因があることや、「読み・書きの苦手さ」を脳のはたらきとも関連付けて、わかりやすく、具体的にお話ししてくださいました。両手動作と脳の発達のお話では、脳の側性を見る体験もありました。「文字が書ける」ということを発達段階からとらえ、認知や運動面からもアセスメントしていくことについても、感覚統合の視点を交えてお話ししていただきました。

<参加者の感想より>

- ・「書字」ということが“簡単なこと”ではないことがよくわかった。板書の仕方、ノートの取らせ方など適切でない点が多々あると気づかされた。
- ・読み書きについて、ついつい見える障害ばかり考えがちだが、脳の機能、脳の発達も交えてのお話を聞き、新しい視点で理解することができた。

パネルディスカッション



精神科医 有賀 やよい 氏をコーディネーターに、京都府総合教育センター人材育成支援室チーフアドバイザー 後野 文雄 氏、作業療法士 松島 佳苗 氏、本校地域支援コーディネーターがそれぞれの立場から二次的な障害への支援についてコメントをしました。

<参加者の感想より>

- ・最新の特別支援の動きや具体的な支援方法やヒントが示されて良かった。
- ・ノートの位置を変えるだけで姿勢が変わることもよくわかった。2学期に是非やってみたい。
- ・同じ指導を何度しても効果のない児童への指導…もう少し考えていかなければいけないと思った。問題事象には必ず意味がある…改めて考えさせられた。

平成25年度 不登校支援研修会

テーマ 『不登校中学生の支援の実際』～通級指導教室の取組を通して～

日時 平成25年11月8日(金) 午後3時00分～5時00分(受付 2:45～)

会場 本校ブレイルーム **定員** 50名

助言 有賀 やよい 氏 (本校精神科校医 地域支援センター「サポートJOYO」巡回相談員)

発達障害等を背景とした不登校の児童生徒や保護者への支援を中心に、特に、今年度から本校病弱教育部で取り組み始めた通級指導の事例を通して、自己肯定感を上げ、自信をはぐくむ支援の在り方について考察します。

—今年4月から病弱通級指導教室がスタートしました—



通級指導の教室

子どもが通級しやすいように、まず好きな活動を取り入れています。
研修会当日には、通級指導の内容や取組の様子なども紹介します。



詳細については、本校HPにも掲載します。御参加、お待ちしております。